

は居るが下の褐色が段々透いて見えて来て居るのがコロの畫に多いのである。

其後外光派が現はれて以來畫法一變して漸く舊態を改めるに至つたのである。尤も今の外光派の遣り方は七色の分解を點や線で現はすのであるが將來此方法をも亦改良するの目が必ず來ることと思ふ。兎に角に今日の畫界に於て用色に新生面を啓いたことは之を外光派の功に歸せざるを得ない。

將來には色彩の方面に如何なる革新を來たすべきか今に於て斷言することは出來ないが、苦し數理の方面に進歩するときには色の配合が數學的に出來るようになるかも知れない。併し學理上には何程進歩したからとてそれで美術品が出來る譯には行かぬ。即ち藝術には個人の性格と云ふものが關係する。個人性なければ眞の藝術は存在せぬのである。私の知己なる音樂家は數學を應用して音樂の曲を微妙に表はせると云つて連りに研究して見たが其結果は何の役にも立たないものであつた。此筆法で仕舞には機械で美術品を製造すると云ひだす者も出るかも知れないが、兎もそんな譯に行くものでは無い。

#### 畫の品位(中村不折氏 中學世界)

假りにこゝに一つの畫がある、感情もよく出てゐるし物質もよく描かれてゐるし色彩濃淡もまた如何にも巧妙である。併し若し其畫にして品位なくばそれは何等の價値ないものと云はれる。かく品位は以上の諸技巧の上に位して、技術としては一番尙いものとなつて居る。

雪舟の作品を、今の畫家が描く巧妙な畫に較べると、無技調で價値なきものゝ如くに思はれるが宜く比較して見ると、超然として一段高い處にあるやうな感がある。それは雪舟の繪には品位があるからである。如斯品位の如何は實に其繪の價値を定めると云はねばならぬ。従つて品位といふことは非常に尙ま

れるが是れが又出來難い事である。  
若し畫家にして其人格が低かつたら、如何に努力しても作品の品位は出來ないものである。